

□■ 食品表示活用研究会 部会実施報告 ■□

部会	第 2 回 消費者部会（ASCON コラボ企画）		作成者： 高山大介	
開催日時	2025 年 8 月 5 日（火） 17：30～19：30		場所： 東京海洋大学品川キャンパス 及び Zoom による視聴参加	
テーマ	消費者市民社会を作る会（ASCON）・食品表示活用研究会 消費者部会コラボ企画として実施 「食品ロス削減」と「期限表示」についての意見交換会～「期限表示ガイドライン」改正を契機として「賞味期限」・ 「消費期限」を改めて考える～			
趣旨	食品ロス削減と期限表示について、消費者、事業者、行政のそれぞれの視座からの話題提供および参加者による意見交換を行い、対話と相互理解を深める			
講師	消費者庁食品表示課 坊様、FOOD COMMUNICATION COMPASS 森田様、国分グループ本社 岡本様、消費者部会 村尾様			
参加人数	会場参加者 44 名 —活用研究会 24 名 —ASCON20 名 Zoom 参加者 12 名 —活用研究会 9 名 —ASCON3 名	資料	解説資料、ワークシート等 部会以外会員への公開 可 ・ 不可	可の場合 紙ベース ・ データ

＜実施内容＞

＜当日の進行と内容＞

消費者市民社会を作る会（ASCON）阿南代表理事あいさつ

意見交換会の趣旨説明：食品表示活用研究会 消費者部会・エスビー食品 高山

行政、事業者、消費者のそれぞれの視座からの話題提供

1. 行政の視座から：消費者庁食品表示課 坊様

2025 年 3 月に改正された「食品期限表示の設定のためのガイドライン」の位置づけと改正のポイント解説

2. 事業者の視座から①：食品表示活用研究会・国分グループ本社 岡本様

年月表示の推進や食品ロス削減の取組に関する事例紹介

3. 事業者の視座から②：食品表示活用研究会 村尾様

事業者から見た設定ガイドライン、事業者の対応状況、事業者と消費者のそれぞれの視点からの意見

4. 消費者の視座から：ASCON 理事・FOOD COMMUNICATION COMPASS 森田様

消費者の期限表示の理解度、期限表示の変遷、賞味期限延長に対する懸念点

グループディスカッション：会場およびオンラインで参加者がグループとなり意見交換

＜主な意見＞

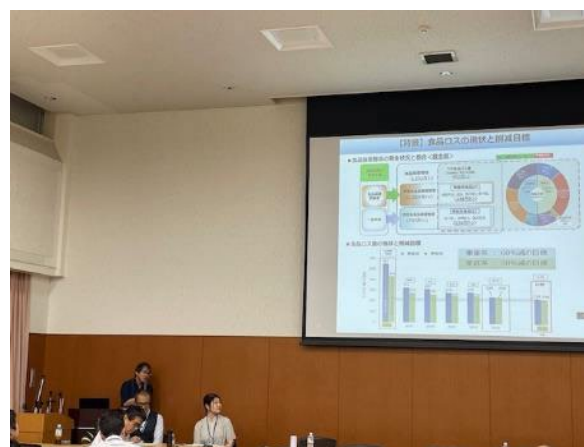
- ・ 食品の特性によって期限表示の根拠の扱いが異なってくること、また、事業者としては流通での取り扱いなど、最悪のことを想定して設定せざるを得ない。
- ・ 「食品は腐敗するものであること」「食するか否かは自身の責任で判断するものであること」が共通認識になっていないことが、一般消費者の振る舞いにつながっているのではないか。
- ・ 保存温度帯も重要で、消費者には賞味期限と保存温度をセットでとらえてもらいたい。
- ・ 係数を 1 に近づけるのは、消費期限設定をしている商品が多いメーカーには難しい。
- ・ 食品表示に関する知識は生活の中で身に付けるものではなく、学校教育の中で学習すべきものではないか。

- ・ 安全係数を 1 に近づけられるような食品は限られているのではないか。
- ・ 常温の 20℃±5℃という設定に対するもやもや。メーカーでは保管試験をして期限設定を行うが、気温が 40℃になっている中で現在のままの温度想定でよいのか。
- ・ 冷凍食品の加速保管試験はどのように行えばよいのか？
- ・ 賞味期限よりも品質保持期限の方が意味合いとしてわかりやすいのではないか。
- ・ 輸入品のナチュラルチーズは、海外では冷蔵 4℃保存だが日本では 10℃なので期限設定に困る。
- ・ メーカーで使用する食品原材料の期限。加工によって扱いが異なるケースもある。
- ・ 年月表示化が進んでいない。品目数が多く、数か月に一度の生産ではメリットがない。

消費者市民社会を作る会（ASCON）阿南代表理事より総括とまとめの言葉

<所感>

- ・ 消費者市民社会を作る会（ASCON）と消費者部会のコラボ企画は 2021 年以來 5 年目の開催となる。これまで「わかりやすい表示とは？」「ステルス値上げ」「中食・外食の食物アレルギー情報提供」など、食品に関して消費者・事業者が協働してよりよい社会を作るための対話の活動を継続して行ってきた。
- ・ 今年 2025 年の意見交換会は昨年度に引き続き「食品ロス削減」をテーマに掲げて実施した。これは今年 3 月に期限表示設定ガイドラインが改定されたことを契機とし、改めて期限表示と食品ロス削減を話し合おうという目的で設定したもの。
- ・ 当日は行政、事業者、消費者のそれぞれの視座からの充実した話題提供によって、後半のグループディスカッションも時間が足りないほどの活発なものとなった。
- ・ 「古くて新しい課題」ともいえる期限表示と食品ロスだが、阿南代表理事のまとめの言葉にもあった通り、気候変動や人口増、日本の相対的な経済地位の変化などの要因によって将来の食糧危機のリスクがあるなか、消費者、事業者、行政がこれまでの壁を乗り越えて協働していく必要性はますます高まっている。今回の意見交換会がその一助となればと考える。
- ・ 今回機材のトラブルによりオンライン配信の音声品質が充分ではなかったことをお詫び申し上げます。



以上